

### 第3分科会

合理的配慮を実現するためのICT活用の課題と展望

話題提供 太田 裕子 氏（品川区立第二延山小学校）  
谷口 公彦 氏（香川県立高松養護学校）  
中西 貴洋 氏（愛知県立みあい特別支援学校）

指定討論 丹羽 登 氏（関西学院大学）

研究報告 金森 克浩 （国立特別支援教育総合研究所）

司会 田中 良広 （国立特別支援教育総合研究所）

第3分科会では、本研究所の金森が中期特定研究として第3期中期計画期間の5カ年にわたって実施した「特別支援教育におけるICTの活用に関する研究」の研究経過について説明し、特に平成26・27年度専門研究A「障害のある児童生徒のためのICT活用に関する総合的な研究－学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理－」で実施した調査概要等の説明を行った後、上記3氏から話題提供をしていただいた。

#### <話題提供>

##### ○話題提供1

太田氏より東京都品川区教育会特別支援教育部会で研究された「特別支援教育の実践を深める指導の在り方」に関して具体的事例をもとに研究の成果や課題についての情報提供をいただいた。研究を進める中で、児童生徒の主体的な学習の推進が図られ、個に応じた指導や支援が充実したという成果があげられる一方で、インターネット環境の整備等が課題としてあげられることについて言及された。また、今後の展望として障害のある児童生徒のみならず、それ以外の児童生徒や保護者への理解啓発を含めた「通常の学級における活用体制づくり」の推進と先端技術や情報を得られる研修機会の設定等、「新たな情報に迅速に対応できる研修体制づくり」が必要であることについて言及された。

##### ○話題提供2

谷口氏より香川県教育委員会をはじめ、香川県立高松養護学校やその他の香川県の特別支援学校で研究を実施された文部科学省委託事業「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」の研究概要や成果の一端である「ICT教材等データベース」についての情報提供をいただいた。身に付けてほしい力や目指したい生活と今の子どもの姿との間をつなげるICT活用という視点から実践された香川県立高松養護学校の事例では、様々なアプリやタブレット端末等の使い方の工夫について述べられ、ICT機器の活用については、「自分で使う」、「指導者と使う」、「指導者が使う」という幅広い視点から活用を推進することが必要である点について言及された。

##### ○話題提供3 中西氏より

中西氏より愛知県立みあい特別支援学校におけるICT活用の実践を通して、「合理的配

慮を実現するための ICT 活用の課題と展望」について情報提供をいただいた。同校では特色ある教育活動として未来志向型の学校づくりや共生社会の実現へ向けた努力を行う中で、ユネスコスクールとして ESD 教育を推進していることなどが報告された。また、外部資金の活用や保護者との相談の中で就学奨励費を活用して ICT 機器を購入する中で、ICT 研究組織を立ち上げる等、校内での積極的な活用の具体的事例について報告された。今後の課題と展望に関しては、「機器の管理の在り方」、「アプリの購入について」、「コーディネーターできる人材の育成」が急務であることが述べられた。

#### < 指定討論者からの意見の概要 >

丹羽氏より「教育の情報化ビジョン」に関して、特別支援教育における情報通信技術の活用については独立した章として様々な提言が盛り込まれている点についての補足がなされた。また、学習指導要領の改訂に係る議論との関連でアクティブ・ラーニングの観点から ICT 活用について言及される機会が増えている状況や「なぜ ICT 活用が普及しないのか」、「ICF 概念図の個人因子への注目することの必要性」について言及された。さらに、支援機器活用の具体的工夫の一環として、使用済みの携帯端末等にあるアプリを活用した仮想現実 (Virtual Reality) の実践により子供の興味・関心・意欲を高める工夫等についても情報を提供していただいた。

#### < 指定討論者と話題提供の質疑応答概要 >

指定討論者より次の 5 点の質問が投げ掛けられた。「どうやって導入と活用が進んだか」、「校内での活用を進めるために心掛けたこと」、「指導場面で活用する際にどのようなことに配慮しているのか」、「導入が進んでいない学校へのアドバイス」、「一定の導入が終わると活用が下火になることがある。そこで今後はどのように展開していきたいか」

- ・長期休暇中に十分に研修を行ってから使い始めた。
- ・i レスキューというチームを組織し、その組織に ICT の活用は苦手だけれども授業の上手な教員にメンバーとして加わってもらった。ICT 機器の相談は機器の管理や設定に関するものもあるが、指導内容や指導方法の相談であることも多い。その点で指導力のある教員に加わってもらって活用のアイデアを助言してもらうことは有効であり、機器活用のハードルを下げることになった。
- ・子どもの視点に立って適時・適切に間や距離をおいたり、言葉掛けのタイミングを待ったりして、子どもの主体性を大切にすることが必要である。
- ・教員に対して、日常生活の中に携帯端末等の ICT 機器を活用してみることを提言した。
- ・研究会の中で良い教材を持ちあって情報共有することで活用を広げていった。授業に関しては、タブレット端末の活用が目的ではなく、授業内容を確実に習得すること、授業のねらいを達成するための手段としての活用であることを認識することも必要である。

#### < まとめ >

ICT 機器の普及や活用についての課題は様々あるが、国立特別支援教育総合研究所でも中期特定研究において実施した関連研究の中では、様々な事例提供や提案を行っているので、是非、これを活用していただきたい旨の依頼を行い、まとめとした。